三池の質問が集中

北海道オルグ 任務果し無事帰山

全国オルグの第一陣として去る十五日北海道へ出発したオルグ団は去る七日に無事に帰山した。炭労全体が三池をつつんで条件の完全かくとくまで闘うという決定は、北海道の仲間たちも強い決意を胸にして確認しており、さいごまで闘い抜くことを誓い合つた。十二日から炭労大会は北海道でひらかれるが、大会はいま北炭はじめ各山にかけられている合理化に対して具体的に対決の態度を決定しようとしている。

三池闘争が条件付事態収拾を決定して、こんどの無差別就労をはじめとして完全就職、法廷闘争など新らしい事態に直面した闘いを、ねばりづよく前進させることになつたが、三池労組、炭労、総評としてはさらに全国オルグを派遣する方針をとつて、去る十五日、全国オルグの第一陣として長駆北海道オルグとして出発した十五名が七日夜、無事その任務を終えて帰山した。

この第一陣の北海道オルグ一行は飯田（本部）早田、命婦（宮浦）寺中、星下（四山）立石、東（三山）洲上、坂口（本所）渋田（港務）の各氏と、指導オルグ団から高木（貝島）大坪（柿島）森（大峰）吉田（三菱飯塚）磯上（崎戸）の各オルグ計十五名であつた。

一行は夕張、留萌、三笠、美唄、歌志内、芦別、赤平、万字、美流渡、釧路の各地区に分散して炭労傘下各支部を巡歴してオルグ活動をつづけてきた。

三池について三山分離という合理化攻撃をかけられている北炭では三池オルグ来るの報を受けた組合員、家族は「わざわざ遠い九州の地から、われわれの支援に来てくれた」と感謝して駅頭で歓迎してくれた。

オルグは組合到着後、直ちに地域へ入つたが「三池の実情を聞かせてくれ」と、どこの地域でも引張りダコで、集まつた組合員、主婦から、つぎからつぎへと質問の連続であつた。

ある組合員は「三池の闘いは泥沼闘争ではなかつたか」という感じを抱いていたらしかつたが、三池オルグの説明を聞いてゆくうちに「やはり泥沼ではなかつた。こんどの条件かくとくの闘いも、炭労全体が力を合わせて闘いとらなければならない」と語つていた。

快よく受入れた 三鉱連

北海道には三鉱連の砂川、芦別、美唄の三山があるが、三池オルグ団に対しては快よく受入れてくれた。そして「三池をこんどは包んで闘う」という強い決意を見せてくれた。

美唄の一組合員は「坑外夫で約三千円、坑内機械などで約七千円、直接夫だと約一万円ほどの賃下げとなつている」と不安を語つていた。

なお、北海道オルグ報告は十日から行なわれることになつている。

農民六割首切り論

全日農〝合理化の農政版〟と抗議

去る九月七日、池田首相が「今後十年以内に、農林水産業に従事する人口を三分の一程度に減じたい」と述べたことは、〝農民の首切り合理化政策〟として各方面に反響を呼び起こした。

全日農では、「労働者を犠牲とする生産性向上運動と首切り合理化のいわば農政版」であると抗議しており、「独占資本の収奪体制を再編成しようとする政策のあらわれである」とキメつけている。

一方、農協内部でも「農民を突き放した麦メシ政策だ」と憤がいの声が出ており、保守的な農民団体のなかでさえ、「これでは農村の将来をますます不安にするばかりで、若い人が農村を離れるのに拍車をかけるようなものだ」と不満をブチまけている。

この首相発言に一番慌ったのは当の農林省である。農林省としては先ほど農林漁業問題調査会から出された答申により、二人で十年間の新規労働者を平均十五万人、死亡、引退、転職を約四十五万人、差引き三十万人づつ減少を見込んで、十年後に千百二十五万人と推定していた。それが半分の五百万人に減らされつつありたと言明された池田内閣の「農民六割首切り論」は、自民党政府が、数年来おこなつてきた「安上り」農政から立つているが、三分の一、四割という数字がハジキ出されたのは、経済成長率を九％と見込むと、労働力は、来年で百万人、再来年で百八十万人の不足となる。これを農村から補充するとすれば、十年後には、農業人口を現在の三分の一あるいは四割程度に減らさなければならない、というわけだ。

いわば、経済成長＝独占強化のための労働力補給として、農業人口は十年間に九百万人も整理されるわけだ。

最近、農村から都市への労働力移動は、急テンポで進められている三十四年度には、四十二万人の労働人口が農村から都市に流れた。しかし、その七割以上が二十才未満の青年であるということに、問題がふくまれている。もし、これを何らの対策もたてずに押し進めていけば、十年後の農業人口は大半が高令者で占められ、農業経営そのものが、崩壊する危険性が充分ある。

さらに、こうした労働力の大半は中小企業、零細企業に吸収され、低賃金で貧しい生活を強要されている現状である。

若い青年、又は新規卒業者は、それでも働く場はあるが、現在農業に就業している農民は、技術革新がおし進められている現状では、就職は到底不可能である。池田内閣の「農業首切り論」はこれを単に経済の繁栄という言葉で解決しようとしているのである。

もちろん、いまの農業人口をあくまで農業内でかかえこんでおく必要はない。しかし、産業構造を改造する場合は、少なくとも、他山業へ移動する人々の生活を保障する政策が必要である。職業訓練、広域職業紹介等による完全雇傭政策、最低賃金制を始めとする社会保障政策の推進、工業の計画的地方分散、農地移譲等後策の完備、充実が必要である。と同時に農業自体を近代化、共同化して経営を安定させ、発展させる政策が示されなければならない。

池田内閣は、こうした施策を忘れて、首切りだけを断行するというのである。これは全く、〝独占再編成のための農民首切り〟と何ら変りはない。

また、貧農を切り捨て、富農だけを優遇する政策であるといわなければならない。

（社会党政策審議会A）

闘争の合間に精進

宮浦木いちご俳句会

宮浦木いちご俳句会では、激しい闘いの中で、同好者が激まし合つて闘いをつづけ、また句作に精進してきた。

これまでの尊い経験を通して、こんどの生活俳句は少しづつ変ぼうするのではなかろうかとの期待と関心が寄せられるが、同句会が闘いの合間にこれまでひらいてきた句会の中から、いくつかを拾つてみよう。（小原青々子選）

香月

○ホツパーへ人いきれ草いきれかな
○ピケ小屋へ突上戸より蚊火煙
○窓開けて運の風をほしいまま
○揚羽来てカンナの紅のいよいよ濃く
○朝涼し炭ぼる仲間をうたいつつ
○サロンパスはりて夏やせピケ坑夫

竜生

○ピケ人やゴザひきづり来て外寝
○ネコの子を拾うて来たるオルグかな
○ピケ小屋の硬の助石月見草
○朋仕立でピケ休戦の夕干狩
○ひらがちに注意と学校の掲示板
○ピケ小屋の恋に夜な夜な銀河濃し
○俳句会涼し船足早めつつ
○ふき上げし畳の上に妻昼寝

柳紅

○海上ピケ汐間に取りしあさりかな
○オルグより暑中見舞の便り来し

青山

○手花火にピケの一日を忘れをり
○ピケ小屋の前に子が来て揚花火

草平

○子ら送る団扇の風に同志僧
○ピケ破る罵声にたちしよし雀
○勤しようの灯かげに咲きし月見草

草

○勤員のナワ帯しかと汗涼し

朴童

○ビール酌む南の人北の人

機関紙・教宣月間

十月から二カ月間

安保反対闘争で機関紙・教宣活動の果した役割は大きかつたが、安保反対闘争が新たな段階を迎え、また総選挙を目前に控えて、機関紙協会、総評などではそれぞれ教宣、機関紙、文化活動の強化月間を計画している。

▽機関紙協会の「機関紙月間」は十月一日から二カ月間。安保闘争の総括、新しい局面での安保破棄合理化反対闘争の宣伝、原水爆禁止世界大会などさいきんの諸大会の決議の宣伝、総選挙の宣伝など月間中はこの方針に従つて機関紙・教宣学校の開催写真、記事、マンガコンクール、「通信員必携」の出版などを行う▽総評の教宣強化月間は十月二日から一カ月間。

苦闘する英通のなか間

裁判では勝利

命令を守らぬ会社

英語通信社労組十七名は昨年二月首切りに反対して争議に入つていらい、六百名をこえる闘いをつづけている。

争議の発展は、組合が低賃金（三五才、一万五千二百円）のため、三十三年十月、一割の賃上げを要求してから。

会社側は給与体系を全面的に能率給に改定することを条件に平均七百円の回答を行なつたが、組合は賃下げになるものも生じると社案に反対。さらに越年闘争で組合が二日間のストを行なつたことに今井社長（73）は「使用人に感を示してきたのに、もう許せない」と首切りにおよんだもの。

会社側は赤字を理由に組合の中心メンバー十名の指名解雇を行なつた。昨年四月十七日、組合がつぶれないと見ると、会社は英語通信社を解散、残る組合員全員を解雇し、同時に第二会社「英通社」を設立、非組合員をつかい、同一出版物を発行した。組合に直ちに都労委と東京地裁に提訴。都労委はさる五月決定の目前に「和解案」を示し、会社、組合双方受諾して終つたかに見えたが、調印を前に会社が拒否し決裂した。

やむなく都労委は、不当労働行為と認定し「解雇取消し、賃金支払え」の決定を下した。これにたいして会社は東京地裁に「都労委命令取消申立」を行ない、さらに弁護団を強化し、争議屋を雇い長期戦のかまえで組合員の生活をしめあげる戦術をとつた。

行商して闘う 組合員

このため都労委は開設いらい初めて地裁に「緊急命令」を求めた。地裁は去る八月末、会社側の不当を認め「全員復職、一時金二百六十五万円を九月三十日までに支払え、夜、復職まで賃金支払え」と経営者に命令を下した。しかし、今日に至るも履行の態度を示さず、かえつて暴力で組合員の追出しを企図している情勢にある。

地裁決定を守らない場合、一日につき十万円の過料（労組法第三二条）であるが、会社の資産の殆んどを私有財産と第二会社にひそかに移転してあるため、金がないと逃げるものと思われる。

地裁決定に違反しても強制する法規がない。会社はこの法の抜け穴を利用して決定の有名無実をねらうだろう。労働者の権利をも守ることのできない法の欠陥はこんど大きな問題となろう。いま英通労組は六百日という長期闘争にもかかわらず、アメ売り行商とアルバイト体制で会社の長期戦に頑張つている。何年かかろうとも絶対闘い抜くと決意を固めている。

英通労組が都労委や地裁で東京では初めての全面勝利をかちとつたことは、こんどの組合活動にとつて前進の足がかりとなろう。問題はこの地裁決定をどのように経営者に守らせるかである。

これはたんに英通労組のみの問題ではなく、これを社会問題としてこんど取上げてゆく必要がある。このため十月四日文京区竹早公園で総決起大会がひらかれ、社長宅に抗議の提灯デモが行なわれた。

（ジャーナリストより）

激励のことば

三池労組組合員の皆さん、主婦会の皆さん、御家族の皆さん。

私たち日本の仏くものの生活と権利を守るために、その最前線に立つて、二〇〇日を越す血みどろの日々をたたかい抜かれたことに私たちは心から感謝いたします。

私たちは皆さまと、社宅に、ピケ小屋に、ヒザを交えて話しながら、社宅に飜える三池労組の旗を眺めながら、皆さまのたたかいのきびしく激しい一コマ一コマを皆さまの口から聞きながら、そして今もなお激しい闘魂を燃やして、「たたかいは今から」「たたかいはここから」と、それぞれの部署で、一生懸命取組んでいる姿に接する時われわれの胸に痛く鋭く突きあげてくるものがあります。

私たちは、もてる力を出し合い一生懸命にたたかいました駅頭に立つて、警官の不当な弾圧を訴え職場に入つては、支援カンパを集め組織動員に参加して共にたたかつてまいりました。

私たちは現実の条件付事態収拾を労仂運動史上における一大痛恨事だと考えています。

いま、私たちは現地の皆さまと接して、ヒシヒシとこのことを感ぜずにはいられません。

私たちは、三日間の会議を終えいま全国に散つて行きます。私たちの職場や地域に第二、第三の三池を作ろうと誓い合つて散つて行きます。

私たちは、あなた方三池の仲間が職制の圧迫に抗してたたかつた職場の労仂運動を、うまずたゆまず続けられた学習活動を、たたかいの規律を、温かい同志愛を、屈することを知らぬ「三池魂」を久保さんの血と、九〇〇〇名の組合員の心血をそそいだ二〇〇日のたたかいによつて与えられた貴重な教訓を一生懸命に学び、たたかいつづけることをお誓いします。

三池労組の皆さん、三池の火はいま、皆さんの激しい、力強いたたかいの中から、火花となつて全国に散り、そして、新らしい無数の火となつて、燃えあがろうとしています。

三池労組の皆さん、家族の皆さん、これからのたたかいは、より一層苦しく、より厳しいものでありましょう。

一、二〇〇名の方々にはイバラの道が待ちかまえているでしょう。

しかし、われわれは、三池の皆さんが決してこの試錬に屈することなく、組織と職場を守りぬき、気高く美しい労仂者の誇りにみちてたたかい抜かれることを信じています。

私たちは決して屈することなく明日を未来を信じてたたかい抜きましょう。

私たちは、あつせん案を承認せず、一、二〇〇名を守り抜き、完全就職と法廷闘争を勝利し三池の火を全国の焔に燃え上らせるため火柱となつて献身することを、ここにお誓いし皆さんの御健闘を心からお祈りします。

一九六〇年十月二日

第二回三池を守る会

全国集会

私たちは屈しない

火柱となつてたたかう